



JR連合 NEWS

JRに集う
すべての仲間の
JR連合への
総結集を！！

2020 年度

No. 79

2021年2月16日

日本鉄道労働組合連合会

JR西日本連合「第28回委員会」

JR西日本グループの経営危機を JR西日本連合の総団結で乗り越える！

JR西日本グループ労働組合連合会（JR西日本連合）は2月10日、大阪市内で第28回委員会を開催し、安全確立、新型コロナウイルス感染症への対応、2021春季生活闘争、組織強化・拡大などの当面する活動方針を決定した。

上村良成議長（JR連合副会長・JR西労組中央執行委員長）は冒頭の挨拶で、本委員会に課せられた主要課題として、「安全確立」「2021春季生活闘争」「苦境を乗り越え、コロナ禍を奇貨として、変化・変容に立ち向かうことの重要性」の3点について、見解を述べるとともに、「皆が苦しい今、JR西日本連合全体で、仲間に寄り添い、助け合う姿勢、今まさに労働組合の真価が問われている」と訴え、直面する諸課題の解決、前進を図り、責任ある運動を推進する決意と、現下の危機をJR西日本連合の総団結で乗り越える決意を表明した。2021春季生活闘争については、JR西労組がベア要求を見送ったことに関して、「今日までベア要求を掲げてグループ春闘をけん引し、相乗効果を発揮する運動を展開してきたことを踏まえると忸怩たる思い」と述べるとともに、「巨額の連結赤字が見込まれ、鉄道のご利用の回復に相当な時間を要することが想定される以上、必達目標賃金を達成していることを踏まえ、JR西日本グループを存続させ、雇用と生活を守ることを最優先する方針を決定した」として、出席者に理解を求めた。そして、JR連合が設定した「必達目標賃金」に未達の単組に対しては、JR西日本グループに相応しい賃金水準に引き上げるため、正々堂々とベア要求を掲げることを要請し、「JR西日本連合として、『底上げ』を図ることができるよう全力で支援を行う」との考えを示した。



質疑・討論では、事前に委員から書面で提出された意見（協力会社を含めた雇用維持にむけた安定的な工事量確保、JR本体のコスト削減策に対する将来不安、鉄道事業法改正法案へのお礼等）に加え、当日の発言（現場社員へのPCR検査の実施）に対して、白壁靖子事務局長（JR西労組副執行委員長）が一括して答弁を行った後、すべての議案が満場一致で採択された。その後、委員会宣言を採択し、最後に上村議長の団結ガンバローで閉会した。